

平成23年度水環境文化賞を受賞して 「とうわメダカの里」での取り組み

NPO法人イーハトーブ里山水棲生物保存会 佐 井 守

この度は榮譽ある賞をいただき、誠にありがとうございます。会員ならびに関係者一同、心から感謝申し上げます。当会、NPO法人イーハトーブ里山水棲生物保存会は、岩手県花巻市の東和地区を中心に、各開発工事や圃場整備などで行き場を失ったメダカやゼニタナゴなど、絶滅危惧種といわれる里山の生物と生態系を守り育てることを目的として、平成11年に任意団体として発足した団体です。当初の活動の動機は、花巻空港の滑走路拡張工事対象地に生息する“ふるさとのメダカ”を守りたいという想いから活動が始まり、同市にある空港工事の土砂採取跡地にビオトープ「とうわメダカの里」を造成しました。平成15年にはNPO法人として活動を新たにし、設立当時20名だった会員は現在30名を超え、「とうわメダカの里」を、地域の小学校の環境学習や各大学の研究、首都圏からの親子自然体験プログラムなどの環境学習の場として多くの方々に開放しています。また、地域の小学校には教材メダカ(写真1)を提供しており、放流禁止を条件に過去7年間で120校に提供しています。

このように活動を続けながら思うことは、メダカやタナゴなどの生き物を守ろうとする小さな地域活動が、人と人をつなぎ、人と自然を育てる一つの動きとなり、様々な地域や各分野の方々に出会い、里山の生物を取りまく現状や問題について情報を共有しあえる機会に恵まれているということと、今まで活動を支え続けてくれた地域や多くの方々がいてくれたことが、この活動を続けていく原動力となっていると感じています。また、ビオトープを整備して10年以上が経ち、メダカの里の生物

が多様になった反面で、最近では外来種のアメリカザリガニが侵入したため、平成22年度から「ザリガニ釣り大会」(写真2)を開催して駆除を実施しており、あらためて生態系のバランス維持の難しさを感じました。

また、昨年度は、平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震による津波により、岩手でも甚大な被害がありました。このかつて経験したことのない規模の災害は、当会も含めた岩手県内の多くの活動団体にとっても、先の見えない暗い影を落としました。しかし、被災地に対しての共通の想いが人と人をつなぎ、大きな支援の輪となり、多くの課題が残る現在も、復興に向けて皆一丸となり努力しています。当会も微力ながら各支援団体やNGO、NPO団体と共に被災地域の復興に向けた支援(写真3)をさせていただいておりますが、今後も引き続き、皆様方からの被災地へのあたたかなご理解と、応援をいただければと考えております。

当会では今後も、地域活動から流域活動へ、そして未来の活動へ進んでゆけるよう、里山の再生、水環境や希少生物の保全・保護を通じて、地域住民や子どもたちの環境に対する意識の啓蒙に向けた活動を継続していくとともに、地域間の連携や、他の流域との交流も意識しながら、人と人とのつながりを広げていきたいと考えています。今回、当会のような小さな地域活動が、このような形で表彰されたことは、望外の幸福であり、光栄の極みと感じています。今後はこの表彰を心の支えとして、表彰の榮譽に恥じぬよう、この活動を続けていきたいと考えています。誠にありがとうございました。

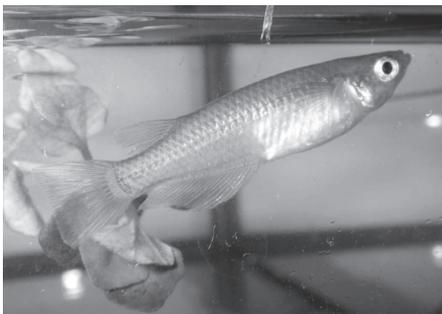


写真1 教材メダカ



写真2 ザリガニ釣り大会



写真3 被災地での水中の瓦礫処理

様々な生命と響きあい、自然を守りながら、自然によって生かされる人の営みの大切さを感じています。